

企業を育てていくのは「人のチカラ」です。 そのためにハード・ソフト両面から人を育てていきます。

私たちの強さを取り戻すには「お客様に価値を認めてもらう」製品を開発し、稼ぐ力を高めていくことが重要です。

この一年間、円安やインフレの進行、資源高やコスト高、欧米の金融不安などが進み、私たちの社会や経済を取り巻く状況は、ますます不透明感を増しています。そして世界の分断が進み、サプライチェーンを使って効率的に「モノ」を供給してゆくサイクルは崩壊しつつあります。

日本にとって、もっと大きな課題は、日本製品の価値が落ちていることだと私は考えています。

日本は値上げに慎重すぎて、世界の価格上昇とのギャップがあるように感じます。日本の稼ぐ力を高めるには、日本製品でなければダメだ、少々割高でも日本製品が欲しいと言われるようなものを増やしていくことが必要です。

それには知恵を使って少量でも価値を認めてもらえる製品を開発し、すばやく供給していく基盤整備が重要です。

私はヤスハラケミカルの稼ぐ力を高めるために、ハード（工場や設備）、ソフト（人材や制度）両面からの基盤強化に取り組んでいます。

生産設備のアップデートは競争力を高めるだけでなく、人の潜在能力のアップデートも促します。

当社では以前から、鵜飼工場と総領工場の建物と生産設備の老朽化に対し、どう更新していくかを検討していました。

両工場ではホットメルト接着剤を主に製造しており、市場には多くの競争相手がいますが、当社では価格競争をさけるために、環境に優しく付加価値の高い製品づくりに特化しています。その中で一部の特殊製品向けに培ってきた技

術に「押出」という方法があります。それをより広い製品製造に応用する技術を確認できたことにより、今年3月に生産設備を鵜飼工場に集約し、競争力の高い製品をより効率的に生産することが可能となりました。（※1）

この生産設備統合の狙いには、生産性の向上だけでなく、「人のチカラ」の向上もあります。人というのは日々の繰り返しだけだと、その人の潜在的な能力は上がりません。たえず新しい投資をし、ハードを定期的にアップデートすることが、人をアップデートすることにもつながります。人手不足や高齢化が進む今、「人のチカラ」を高めるためにも、新しい投資を続けることには意味があります。

（※1）詳細はP9、特集1「鵜飼・総領工場統合による効率化」をご参照ください。

夫婦で一緒に子育てをしたり友人との交流の機会を増やすことで、新しい発想や視点が生まれることを期待しています。

稼ぐ力のある製品を生み出すには、これまでの常識にはとらわれない発想や考え方で仕事に取り組む人を育てることが大切です。

そこで、女性管理職の登用と男性育児休業取得の数値目標を設定し、仕事と家庭の調和をこれまで以上に積極的に支援することにしました。（※2）

その背景には、日本では女性が管理職になりにくい雰囲気や、男性の家事労働の時間が他国に比べてとても低いことがあります。本来、家庭では子育ても家事労働も男性と女性が一緒になって分担することが理想ですが、高度成長期以降、男性は外で働き、家事は女性が担うことが一般的な環境が続いてきました。しかしこの状況では、新しい価値観や視点は生まれません。

家事にかかる時間を労働時間として含めれば男女の間で大きな労働時間の差が生まれています。

そこで、育児期の社員に夫婦で育児を行う時間を増やすことで、男性には仕事以外のさまざまな体験から視野を広げる機会を増やし、女性には安心して仕事や子育てができる環境を整えることができると考えたのです。

さらに、こうした制度で能力や意欲のある女性がどんどん管理職にチャレンジする気運が高まれば、社内の活性化にも好影響を与えたいと思います。

(※2) 詳細はP11、特集2「働きやすい雇用環境(仕事と家庭の調和)」をご参照ください。

膨大な情報の中から次の種を
瞬時に見極める、そんな能力を持つ人を
育てていきたいと思っています。

将棋の藤井聡太さんはAIソフトを使用して将棋を練習しているそうですが、彼の談話をきくと、気づく力が特に優れていることがわかります。おそらく、将棋ソフトを相手に序盤・中盤・終盤の攻めや守りの膨大なパターンを経験することで、情勢や最適解を瞬時に分析する能力が鍛えられたのではないかと想像します。従来のような詰め将棋と師匠の教えだけでは、決して身につかない分析力です。

労働人口が少なくなっていく中で生産性を上げるためには、現役世代が「学習マインド」を生涯にわたって持つことが大切になってきます。

これからの時代に勝ち抜いていくために、情報を俯瞰して分析できる人を育てていきたいと考えています。それは時間がかかることですが、それでも一歩ずつやり続けたいと思っています。

ヤスハラケミカル株式会社

代表取締役社長 安原 旗 二

Teiji Yasuhara

